

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 6 期）
開催日時	令和 5 年 2 月 2 8 日(火) 午後 6 時 3 0 分～午後 7 時 3 0 分
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 4 会議室
議 題	1 会長の選任等 2 これまでの活動と今期の運営方針について 3 その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	湯川委員、土井委員、伊澤委員、三木委員、棟近委員、 宮武委員、松井委員、水原委員
事 務 局	大西市長、中川創造都市推進局長、一原創造都市推進局参事、 塩田産業経済部長、次田文化・観光・スポーツ部長、 今池産業振興課長、平井産業振興課長補佐、 岡本産業振興課創造産業係長、伊藤産業振興課主事
傍 聴 者	0 人
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

- 1 開会
(市長挨拶及び事務局から出席委員・事務局紹介)

- 2 会長・副会長の選任
湯川委員が冨田委員を会長に推薦し、他の委員も承認
冨田会長が湯川委員を副会長に指名

- 3 U 4 0 のこれまでの活動について

【事務局】
(資料 2 について説明)

4 自己紹介ワーク

(委員がお互いの理解を深める自己紹介を実施)

5 今期の運営方針について

【事務局】

(資料3スライド1について)

第6期U40委員の任期は令和6年11月29日までの2年間となっており、この任期中に、お願いしたいことをまとめている。

令和5年度は、新しいまちづくりと市政運営の基本方針である「第7次高松市総合計画」や「次期高松市創造都市推進ビジョン」の策定の年となるため、これに合わせて、各事業課は、事業の見直し等を行っていくこととなる。

昨今の予想もしなかった感染症の拡大やデジタル技術の目覚ましい進歩など、本市を取り巻く環境が大きく変化する中、市職員だけで検討を進めていくのも限界があるため、ポストコロナを見据えた新たな事業や、改善、刷新を必要とする事業などについて、様々な分野で活躍をされている第6期U40から、斬新で、多角的な視点からの御意見やアイデアをいただきたいと考えている。

(資料3スライド2について)

皆様には、事務局が創造都市推進局内から選定した事業について、御意見やアイデアをいただきたいと考えており、まず6月に、選定した事業を所管する担当課から、U40の皆様に対して、事業の概要や改善したい点などをプレゼンテーションしてもらおう。ここで対象となる事業については、ポストコロナや改善、刷新を目指す事業を対象とし、予算の有無は問わない。また、プレゼンテーション及びその後の意見交換に参加する職員は、管理職員ではなく、係長や担当職員といった、実際に、事業を担っている若手・中堅職員と考えている。

プレゼンテーションの後、7月にかけて2回ほど市職員と一緒に議論をする機会を設け、事業の企画段階から御意見等をいただければと思う。これをきっかけとして、U40の会議の場以外においても、メール等で連絡を取り合ったり、ビデオ会議で意見交換をする関係性になればと期待しており、第6期では、これまでのような市職員U40の公募はしていないが、このような官民が共に議論を重ねることで、U40の皆様と本市の若手職員との人脈構築ができればと考えている。

なお、各担当課は、皆様と一緒に議論した内容をもとに、次年度以降の事業を

検討することとなるが、その結果については、次年度の U40 の初回会議において、結果報告をさせていただく予定としている。

【副会長】

事業選定が非常に大切になると感じている。今回、12名の専門分野を持った委員がいるので、事業選定はそこも参酌して選定するのか。

いわゆる観光分野だとか芸術とか、各々得意な分野があるが、そういった得意分野がいかされる形で事業選定されるのか。

【事務局】

実際の運営方法については、事務局で検討中の段階であるが、例えば、観光分野で事業を出してほしいというように分野を縛るつもりはない。各課で、今まで前例踏襲で行っていたが、改善したい点がある等、課題がある事業を中心に挙げてもらいたいと考えている。

その中で、事前にどの事業を対象にするかを、会長や副会長と相談しながら選定して、皆様の専門分野や幅広い知見をいかした意見やアドバイスいただきたいと考えている。

【副会長】

行政は、観光は観光、芸術は芸術と、縦割りになりがちである。観光であっても福祉の視点だとか、芸術の視点だとか、何か相互作用が出てくるように意識して、事業選定をしてほしい。

【委員】

第5期と大きく運営方法が変わるのか。

【事務局】

第5期は、U40に運営を全てお願いする形であったが、第6期は、事務局からお願いしたいことを明確にした。要綱上、U40は若い世代の意見を聴くというのが設置目的のため、市の施策に対して意見をいただきたいと思っている。

第6期は、夏前に集中して会を開催させていただく予定である。

【委員】

会議以外で、各課と意見交換を実施するというのはどういうことか。

【事務局】

会議については、月に1～2回程度になるが、それ以外の日々の連絡を、メールやビデオ会議で行うことを想定している。

6 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)